

これまでの川崎区

川崎区のこれまでのできごとを写真とともに振り返ります。

元和 9 (1623) 年	東海道川崎宿が設置	
明治 5 (1872) 年	品川横浜間鉄道の開通により、川崎停車場（川崎駅）が開設	
明治16 (1883) 年	六郷川（現在の多摩川）に六郷橋が架橋	
明治22 (1889) 年	市制・町村制が施行され、川崎町が誕生	
明治26 (1893) 年	大師河原村の当麻辰次郎が梨の新種を発見し、長十郎梨と命名	
明治32 (1899) 年	大師電気鉄道（京急大師線）六郷橋駅～大師駅が開通	
明治43 (1910) 年	多摩川の大洪水で六郷橋が流される	
大正 7 (1918) 年	JR南武線川崎駅～浜川崎駅（浜川崎支線）が開通	
大正13 (1924) 年	川崎市制を施行	
大正14 (1925) 年	六郷橋が架橋	
昭和 2 (1927) 年	田島町が川崎市に編入	
昭和 3 (1928) 年	大師に市内初の市営プールが完成 川崎河口水門が完成	▲ 大師橋 提供：花塚勝美氏
昭和13 (1938) 年	市役所本庁舎が完成	
昭和14 (1939) 年	多摩川に大師橋が架橋	
昭和19 (1944) 年	市電が開通	
昭和21 (1946) 年	川崎市が川崎・大師の各地区事務所を設置	
昭和24 (1949) 年	川崎競輪場が完成 川崎競馬場が完成	
昭和26 (1951) 年	市営トロリーバス（川崎駅前～桜本間）が開通 富士見公園野球場を整備し、川崎球場と改称して公式野球場に	▲ 市電 市民ミュージアム所蔵
昭和31 (1956) 年	市民会館（市体育館）が開館	
昭和34 (1959) 年	川崎市労働会館が開館	
昭和35 (1960) 年	臨海部に石油コンビナートが形成	
昭和37 (1962) 年	川崎駅前の公共地下道が完成	
昭和41 (1966) 年	京浜急行線川崎駅前が高架化	
昭和42 (1967) 年	市がトロリーバスの運行を廃止 産業文化会館（教育文化会館）が開館	▲ 産業文化会館
昭和44 (1969) 年	市電が廃止	
昭和47 (1972) 年	区制がひかれ、市域が川崎・幸・中原・高津・多摩の五区が誕生	
昭和50 (1975) 年	大師・田島両支所を合同庁舎として整備	
昭和53 (1978) 年	第1回かわさき市民祭りを富士見公園一帯で開催	
昭和61 (1986) 年	川崎アゼリア開業	
昭和62 (1987) 年	大師公園に中国式庭園「瀟秀園」が開園	
昭和63 (1988) 年	「川崎市ふれあい館」が開館	▲ 瀟秀園

平成 2 (1990) 年	川崎区役所が市役所本庁舎からパレールビルに移転し、川崎区総合庁舎としてオープン	
平成 4 (1992) 年	川崎港のシンボル、「川崎マリエン」が開館 プラザ田島が追分町に開館	
平成 5 (1993) 年	区のシンボルマークが決定 全国初のエレベーター付き歩道橋「川崎ハローブリッジ」が完成 市役所第3庁舎が完成	
平成 7 (1995) 年	プラザ大師が大師駅前に開館	
平成12 (2000) 年	川崎球場が半世紀の歴史に幕を閉じる	
平成13 (2001) 年	貴重な浮世絵などを所蔵した川崎・砂子の里資料館開業	
平成17 (2005) 年	「区民会議」の試行をスタート	
平成23 (2011) 年	環境を学べる施設「かわさきエコ暮らし未来館」が開館	
平成24 (2012) 年	区制40周年を記念して「区の花」「区の木」を制定	▲ 東海道かわさき宿交流館
平成25 (2013) 年	川崎宿の歴史や文化を学ぶ「東海道かわさき宿交流館」が開館 「川崎生命科学・環境研究センター LiSE（ライズ）」が完成 大師河原公園にスケートボードパークが市内初設置	
平成27 (2015) 年	市内最後の百貨店、さいか屋川崎店が閉店	
平成28 (2016) 年	JR 南武線新駅の「小田栄」駅が開業 川崎・砂子の里資料館が休館	
平成29 (2017) 年	川崎市スポーツ・文化総合センター「カルッツかわさき」が開館	▲ 川崎生命科学・環境研究センター LiSE 提供：三輪晃久写真研究所
平成30 (2018) 年	JR 川崎駅北口改札及び北口通路の供用開始 市内初の防災空地が小田の密集市街地に完成 川崎市教育文化会館大ホールが閉鎖	
令和 元 (2019) 年	川崎駅前に「川崎浮世絵ギャラリー」が開館 地域の保育と子育ての拠点となる「川崎区保育・子育て総合支援センター」が開館	
令和 2 (2020) 年	京急大師線「産業道路駅」が「大師橋駅」に駅名変更 市内初の水族館「カワスイ 川崎水族館」が開業	
令和 3 (2021) 年	東海道川崎宿起立 400 年ロゴマークを制定	
令和 4 (2022) 年	川崎と羽田空港をつなぐ「多摩川スカイブリッジ」が開通 祝 川崎区制50周年！	
令和 5 (2023) 年	祝 東海道川崎宿起立400年！	



▲「多摩川スカイブリッジ」開通

クイズ

ここはどこだろう？③



ヒント 多摩川沿いにあります。

答えは最終ページ

数字で見る川崎区

50年前と比べてどれだけ変わったか数字で見ましょう。

※比較する資料が異なるため、参考程度にご覧ください。

全体の人口は少しか減少！

239,384人



昭和47(1972)年4月1日

川崎市統計書(S47.4.1)

232,048人



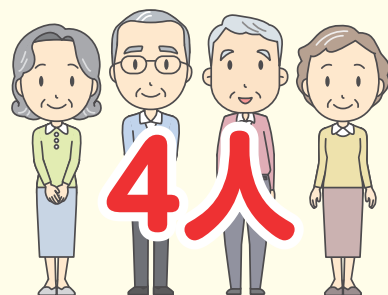
令和4(2022)年12月末

町丁別年齢別人口(R4.12月末)

川崎区民を100人とする…

※数値はおおよその数で表しています。

高齢者(65歳以上)は増加！



実際の人数：10,005人

昭和47(1972)年4月1日

川崎市統計書(S47.4.1)



実際の人数：51,767人

令和4(2022)年12月末

町丁別年齢別人口(R4.12月末)

全体の人口に対する割合は麻生区に次いで

第2位

子ども(0歳～14歳)は減少！



実際の人数：55,310人

昭和47(1972)年4月1日

川崎市統計書(S47.4.1)



実際の人数：24,301人

令和4(2022)年12月末

町丁別年齢別人口(R4.12月末)

全体の人口に対する割合は7区中

第7位

外国人住民人口は増加！



実際の人数：6,643人

昭和47(1972)年4月1日

川崎市統計書(S47.4.1)



実際の人数：16,581人

令和4(2022)年12月末

町丁別年齢別人口(R4.12月末)

全市の外国人人口に対する割合はダントツで

第1位



クイズ

ここはどこだろう？④



ヒント

隣には「かわさきエコ暮らし未来館」があります。

答えは最終ページ

「区の花」「区の木」の紹介

区制40周年の時に制定した「区の花」のひまわりとビオラ、「区の木」の銀杏と長十郎梨が、区内のさまざまなところで見られます。50周年の年に育った「区の花」「区の木」をご紹介します。



ひまわり



@川中島中学校



@大島小学校



@小田公園



@浅田こども文化センター



ビオラ



@宮前小学校



@富士見公園



@富士見公園



@大師公園



銀杏



@市役所通り



@富士見公園



長十郎梨



@川中島小学校



コロナ禍の生活

新型コロナウイルス感染症は、令和2(2020)年1月に区内で最初の感染者が確認されて以降、急速に拡大し、大規模イベントの中止や延期等の要請がされ、小・中学校、高校等に臨時休校が要請されました。4月には感染拡大を防止するため、初めて緊急事態宣言が発出され、社会・経済活動は大きく制約されることになりました。

こうした状況下で、生活は大きな変化を強いられ、マスクの着用をはじめ、外出自粛や人と人との接触機会が減少し、仕事面ではこれまで以上にテレワークやオンライン会議が広く実施されることになりました。

令和4(2022)年3月現在は、制約がある程度解消されたものの、今もなお、withコロナによる生活を送っています。



▲ オンラインによる会議



▲ 消毒液



▲ 飛散防止シールドを設置した区役所の窓口対応



検温 ▶

クイズ

ここはどこだろう？⑤



ヒント

ドイツ人技師が泊まっていた。

答えは最終ページ



50周年の年に生まれた ロゴマークとキャラクター

区制50周年ロゴマーク



区制50周年を記念してロゴマークを制作しました。

このロゴマークは、区内小学校の児童の皆さんによる投票と区ホームページによる一般投票を行い、投票結果を踏まえ、決定したものです。

ロゴマークのデザインは、区制40周年を記念して制定した「区の花」のひまわりとビオラ、「区の木」の銀杏と長十郎梨を区民の皆さんに親しんでもらえるよう、ロゴマークに活用して作成しました。

地域包括ケアシステムキャラクター「ちけあ丸」



子どもから高齢者まで、もっと多くの区民の方に地域包括ケアシステム(略称:地ケア)を知ってもらうために、キャラクターを作りました。

大師名物の土産物のひとつである「だるま」をモチーフとし、区の木である「銀杏」の飾りや「川」の字をデザインすることで、川崎区らしいキャラクターにしています。名前の「ちけあ」は「地ケア」を柔らかく表し、名前の「丸」と丸い体は「丸→輪→地域の輪」を意味しています。

クイズ ここはどこだろう？ 【答え】

① 芭蕉の句碑 (13ページ) 所在地:川崎区日進町11-9

解説

「麦の穂を たよりにつかむ 別れかな」元禄7(1694)年5月、故郷伊賀に向かった松尾芭蕉が、見送りにきた弟子たちと川崎宿のはずれ(京口)近くの茶屋で別れを惜しみ詠んだ句。
俳聖・松尾芭蕉の足跡をしるしたこの句碑は、文政13(1830)年俳人一種によって建立されました。

② 稲毛神社 (19ページ) 所在地:川崎区宮本町7-7

解説

武の神とされる武甕槌神(たけみかつちのかみ)を祀った古社。浅間神社や佐佐木神社など15の境内社をもち、川崎区で最古の神社といわれています。
毎年8月1日、2日から直後の日曜日にかけて川崎山王祭が盛大に催されています。

③ 川崎河港水門 (25ページ) 所在地:川崎区港町66番地先

解説

川崎区を縦貫する大運河計画の一環として昭和3(1928)年に完成。高さ20.3m、水門幅10m。社会情勢の変化から計画は中止されましたが、水門だけが残りました。
白く大きな水門の頭部にあるオブジェは、往時の川崎の名産物であった梨やブドウ、桃などがモチーフにされています。大師河原や対岸の六郷など多摩川下流の沿岸一帯にはかつて梨や桃の果樹栽培が盛んでした。
水門のデザインや規模が高い評価を受け、平成10(1998)年国の登録有形文化財(建造物)に登録されました。

④ 浮島太陽光発電所 (27ページ) 所在地:川崎区浮島町

解説

川崎大規模太陽光発電所として設置されたうちの1つ。川崎市と東京電力の共同事業として、平成23(2011)年に運転が開始されました。川崎市の所有地約11ヘクタールの10ヘクタールの太陽光パネルが敷き詰められており、出力は約7000キロワットになります。
浮島太陽光発電所に隣接する市浮島処理センター内に、太陽光発電などについて、体験的に学べる環境学習施設「かわさきエコ暮らし未来館」が、平成23(2011)年8月6日に開館しております。

⑤ アウマンの家と門柱 (29ページ) 所在地:川崎区南渡田町1-1 テクノハブイノベーション川崎(THINK)内

解説

JFEスチール株式会社(旧日本鋼管株式会社)の敷地内にある建物。明治末年にドイツから招いた職工長アウグスト・アウマン氏らの宿舎として使われていました。一度は取り壊されたものの、後に記念資料館として復元されました。現在は一般開放されています。
敷地内には、大正7(1918)年創業当時の正門に置かれていた石造りの門柱や日本鋼管株式会社初代社長白石元治郎氏の銅像が置かれています。

発行日 令和5(2023)年3月

発行 川崎区役所(川崎市川崎区東田町8番地)

編集 川崎区役所

印刷 有限会社 協立印刷社

●写真のコピーライト

本誌の画像の著作権は、川崎市あるいは画像提供元に帰属します。著作者の承諾がない限り私的使用など法律によって認められる範囲を超え、これらの情報を使用(複製、改ざん、頒布等含む)することは法律で禁止されています。

●本誌に掲載した文章等で、意見にわたる部分は、それぞれ発言者の個人的見解であることをお断りします。